

令和元年度第2回地域福祉計画推進協議会 議事要旨

<日 時>令和元年11月1日(金) 13時30分～15時30分

<場 所>和歌山市あいあいセンター福祉交流館3階会議室第3・4

1 開会

・福祉局長挨拶

前回5月に会議を開催した後、地域の活動事例を募集し、79事例もの応募があった。その中から10の団体を選んでいただき、その掲載案も今日は作成させていただいている。その審議と、第4次和歌山市地域福祉計画の素案についてもご審議いただくことになっているので、よろしくお願ひしたい。

・会長(議長)挨拶

今日(の議題)は素案と、概要版。和歌山市の地域の福祉事例は沢山ご応募いただいた。事例の選定部会をつくり、その部会委員の中でも頭を悩ませながら、よく検討してきたものなので、是非皆さんで、和歌山の地域を真剣に考えて、市民の立場から活動をされているこんな団体があるんだということを知っていただければと思う。

この間の国の動きとしては、「全世代対応型社会保障」といわれるものの議論が始まっている。社会保障は誰にでも必要で、その人の生活状況を見ながらその人にフィットした社会保障をどうやってつくっていくか、限られた財政の中からどう調整をしていくかも含めて、そういうかたちに変えていこうということ。また、地域づくりの面では、地域の中にいる人達全てがいきいきと役割を持てるように、地域の生活の丸ごとを皆で見守っていけるようにということで、「我が事・丸ごと」という動きも同時期に始まってきている。この2つは関係性を持ちながら進んでいくものだと考えている。

福祉は今まで行政が主で担い、ないしは福祉の専門職の方たちが一生懸命やってきたが、それだけではなく、市民・団体にもできることがあるんだと、多様なかたちで参画をしていただくことが必要になってくると思う。和歌山市でそれは難しいんじゃないかと、もし懐疑的に思われている皆さんは、是非今日の議事の2のところの、事例がどんなものが選ばれてきているかを見ていただいたら、和歌山市内でも沢山の方が市民として、福祉に携わること、ないしは福祉の周辺部分に携わることを、関りを持ちながらやられているということが、実感を持って分かる。そういった事例が出てくる度に、和歌山市は前に進むんじゃないかと思う。

2 議事

(1) 第4次和歌山市地域福祉計画の素案について
<事務局>

・次の資料について事務局から説明

【資料1】 第4次和歌山市地域福祉計画 素案

※次の資料については、時間の都合上説明を省略

【資料2】 第4次計画 素案の補足説明用資料

<議長>

まず、50ページ「②福祉の仕事に就く人を増やします」、ここには是非入れていただきたいことが、福祉の仕事は勿論専門性、資格の取得やスキルアップも必要だけれども、やはり人権を守る担い手であるということ。利用者はどうしても弱い立場に置かれている。その人の意見をいかに汲み取り、力づけをするかという、人の権利を守る担い手なので、人材育成の時にはスキルアップの研修だけではなく、倫理的な研修とともに、という要素を入れていただきたい。

また、福祉の仕事をしている方に関しては、ケア労働に基づく感情労働という言葉がよく使われる。気遣いをして感情をすり減らしていくような仕事で、人を相手にしているので、精神的にしんどい思いをするところがある。それに対するスーパーバイズであるとか、ケアをしている仕事の人をちゃんとケアをする制度というのが欲しいと思っている。「あなたの仕事自体しんどいのはちゃんと分かっているけど、皆でケアをするよ」みたいな、フォローするような体制が欲しい思っていて、その辺りもこの地域福祉計画で、福祉の仕事に就く人のための項目に必要であろうと思っている。

二点目、63ページ、「〈アクション2〉さまざまな困りごとを支えるしくみづくり」という部分に今回、権利擁護の、成年後見の充実ということを入れていただいた。これはどちらかということ市社協さんの活動計画の方の話になると思うが、成年後見を使われる方というのはかなり認知の程度が重い方であって、むしろ地域で生活をしていく時にちょっとした手助け、どちらかということ市社協さんがやられている福祉擁護の権利擁護事業の方も非常に重要であろうと思っている。社協さんがやられる部分と分担もあるかと思うが、福祉の権利擁護事業、あと日常生活の方の事業、そういったところの言及もC-②である方がいいのではないか。

三点目、45ページからの「④住まいの確保を推進します」という住まいの点が非常に重要になっている。母子家庭の人などもそうだが、保証人が用意できず、入居が非常に不利な状況になるということが多い。公営住宅が適切に活用されているかどうかということ、そういった多様な人達もふまえながら、検討してほしい。

また、これは地域福祉計画に書いて下さいという話ではないが、あまり身寄りがないとか孤立しておられて、公営住宅に入られた、ないしは孤立して生活をされている方の最期の看取りと、死亡後どうなっているかという話が、今論点になっている。住まいを確保したその後の話も孤立した人にはあるということも、少し理解をしておいていただければと思う。

<委員>

31ページ、この地域福祉計画のエリアは、資料1から見ると単位自治会、地区になってくるので、42地区が中心になっていくということだと思う。これは和歌山市さんにお伺いしたいのだが、他の計画、例えば高齢者の計画では、15地区でやりましょうとか、子どもは10ブロックでやりますとか、それぞれでばらばらなのに、地域で活動することはできないのではないかと。今回の計画で何とかしてというのは無理な話だと思うから、市の将来の方向性として、地域をちゃんと特定していくかどうかということで、提案させていただきたい。何とかして一つにしていけないと、という風に思う。将来的には地域というのは流動的なものになっていき、町はどんどん変わっていくので、子どもを中心に考えるのか、何か支援を受ける人を中心に考えるのかの違いになってくる。そういうことも踏まえ、和歌山市は一体これからどういう風な思想のもとにこの地域を考えていくのかということも、今後検討していただきたい。

もう一つが、45ページの住まいの確保の部分で、特にこの中の黒丸(●)で「高齢者の住まいの安定的な確保」というのが特記されているが、同じように障害者の住まいの確保も大切。市の事業としてグループホームの充実であるとか、もう既に色々な事業をやっているから、障害者の住まいの確保という部分もここへ入れていただけたらいいかと思う。

最後に、64ページに相談窓口のネットワークの事業とあるが、和歌山市内に相談窓口は山ほどあって、どこへ行ったらいいやら何をやったらいいやら訳の分からない状態になっている。この相談窓口にかかっている予算を全部足したら莫大なお金が出てくると思うので、将来的には、ワンストップでそこに行けば何でも受けてくれるような場所が地域のためには必要なのではないかなと思うので、計画の中に「ワンストップ」という言葉を入れてほしいという風に思う。

<福祉局長>

色々な区分けがあり、そこは何らかの方向で統一していかないといけないとは考えている。ただ、市全体で今後色々な部分を考えながら、検討していくということになると思う。何らか解決できる一番いい方法、全ての市民が、子どもから高齢者までが、一緒の地域で安心安全に暮らせるようなまちづくりにできる体制というのが必要だと思う。時間がかかるか分からないが、うちの方からも提案していきたい

とっている。

障害のところ（「障害者の」住まいの確保）につきましては、入れていきたいと思う。

最後のワンストップ化について、今おっしゃっていただいたように、様々なところで様々な相談窓口がある。それはそれで機能はしており、その部署で、対象の方々に対してやっている。けれどもワンストップ化というところについては、大事なことだと思っている。文章に入れるかどうかは今すぐに回答できないが、ワンストップ化については検討していきたいと思っている。

<委員>

二点、お伺いしたいことと提案がある。

一つは、スーパーバイズできる専門職の人材養成、これを是非とも入れていただきたい。和歌山市は、見た資料の中では、フォーマルな施策・サービスは充実しているが、インフォーマルなサービスとかセミインフォーマルなサービスがまだ少ないような気がする。持続可能な地域福祉を目指すならば、この地域福祉計画の中に、フォーマルとインフォーマル・セミインフォーマルという風なものをクロスオーバーさせる人材育成、専門職、これを入れていかなければ、次の第5次6次の骨格立てが難しくなってくると思う。費用はかかるかもしれないが先行投資ということで、入れていってほしい。

二点目は福祉教育の文脈。学校の中での福祉教育というのはなんとなしイメージできたが、大人のための福祉教育というところが見えにくいように感じる。それが唯一出てきているのが、話し合いの場の形成というところ、プログラムAに書いている部分に繋がってくるのかなど。もう少しこの話し合いの場が一体どんなものなのかということ、市民に見えるように可視化させてほしい、加筆の要望。具体的には、「地域の課題を知る」、「お互いを知る」こと、「理解をし合える環境をつくっていく」といった文言を入れる、「お互いに助け合い、支え合うことに抵抗がなくなる環境整備のしかけ」、こういったものにその場づくりを当てはめるということも変え様かなと思う。ここで大切なことは、ケアリングコミュニティというところ。支える、あるいは支えられるという一方向的な関係づくりではなく、相互に支え合う地域を構築するという共依存の文脈で、自立というのもありかと思う。是非、依存先を増やすことが自立に繋がるという文脈も入れていってほしい。これを分かりやすい文脈で、市民にも分かりやすいような仕組みづくりの中の一環で、記載していってほしい。

<議長>

補足すると、最後のケアリングコミュニティ、支え、支えられるというところの、依存しながら支え合うというのは、28ページの基本理念の部分にも書き込んでお

いてもらった方がいいと思う。

それから、大人に対する福祉教育というところで、A-②で、発展的学習というか、1回話し合って終わりではなくて、行きつ戻りつしながらずっと話し合う体制を自分たちの意識の中でつくっていく、といったことも是非盛り込んでいただきたいと思う。

スーパーバイズは、福祉で働く人のところですのでごく大事。また、65ページの担い手のところで、イメージとしては、する人だけじゃなくて、そのする人をちゃんと支えてコーディネートする人を養成するんだという話が入った方がいいと思うので、是非加筆をお願いしたい。

<委員>

もし今の文脈で、何か市が今現行で考えているイメージがあったら、お答えいただきたい。

<福祉局長>

今おっしゃっていただいた意見、十分参考にさせていただいて、また次回のところで回答させていただけたらと思う。

(2) 第4次和歌山市地域福祉計画概要版(案)について

<事務局>

次の資料について事務局から説明

- ・【資料3】 地域福祉活動事例集(案)について
- ・第4次地域福祉計画概要版(案)

(3) その他

<事務局>

- ・次の事項について事務局から説明
【資料その他】 全体スケジュール

- ・各委員から一言

<委員>

本当にたくさんの課題を、この本をずっとまとめていただいてありがとうございます。作業は大変だったと思う。

<委員>

事例を沢山読ませていただいた、すごく素晴らしい事例。

私は今、放課後の児童の支援員をしている。私が小さい頃と違って、色々子どもたちの様子も変わってきている。ちょっと厳しいことを言うと、子ども自体少ないということもあると思うけれども、自分本位で、自分がよかったらいい、みたいなことを言う子どもも結構いる。これからの社会には、小さい頃から子どもたちに、地域の奉仕活動とか、ボランティア活動とかそういうものに参加させて、色々な人と関わって、住みやすい地域をつくっていくことがやっぱり必要だと思う。小さい頃からのそういう活動が支えになって、これから住みやすい地域になっていくと思うので、子育て支援も、色々問題が地域であるけれども、頑張って支えていきたいと思っている。また何かあったら、皆さんに教えていただきたい。

<委員>

まずこの冊子（資料1）を見ていて、児童扶養手当の受給者が減少しているというところ、良い傾向だなと思った。離別のひとり親家庭が増えているこの時世で、児童扶養手当の受給者が減るということは、国の政策なり色々地域の福祉の政策が充実してきているからかなと思って、まあまあ良い傾向かなと思いながら資料を見させていただいた。もう一つ、地域福祉の担い手の養成、本当にそれは大事なことだけれども、我が会の会員が高齢化してしまい、そこへもって若いお母さん達は、団体へ加入するというのをすごく嫌がって、躊躇してしまう。どんな事業をして勧めても、事業には参加してくれるが、そこで本会のチラシを配って説明して、入会のお願いをしても、皆無と言ってもいいぐらい、新規の加入者は無い状態。どんなにしていっていいか今頭を痛めているところ。本会をもう一度考え直して、地域福祉の方にもお手伝いしていきたいと思うので、どうぞよろしくお願ひしたい。

<委員>

資料を送っていただいて早速ずっと目を通した。皆さんに色々お伺いした中で、やはり絵に描いた餅にならないように、生きたものとして、社会の福祉というのは変わっていったら嬉しいな、ありがたいなとは感じている。どうぞよろしくお願ひしたい。

<委員>

（資料1）19ページで、情報交換をしていきたいとか、今後は一緒に活動をしていきたい、というところの比率が結構高い。私共が色々な人に話を聞くと、「老人会ら、そんなん、やれやんよ」というような意見がくる。このデータと若干、現実とは違うのかなと思うが、これだけ情報交換はしていきたいという方がいるのだったら、福祉なり、老人会もそうだが、そういったところにもう少し力を入れて、皆の

声を聞けるような場にしていかなければいけないと思う。

もう1つ、直近で、自然災害がものすごく、「今までに経験したことがない」という表現をされているが、そんなものが起こっている。住環境も社会環境も、インフラ自体がもう全然機能しないというような格好になって、福祉どころか生活するのもいっぱい、下手したら死んでしまう、というような生活に追いやられる環境なのかもしれない。分野は違うのかもしれないが、そういったことも考えていくことをしていかなければいけないかなと思う。

<委員>

4次計画の素案を読ませてもらい、キーワードはやっぱり、「参加」「参画」というところかなという風を感じている。その仕掛けをいかにつくっていくのかなというところが、危惧でもある。住民懇談会等、そういった中で、自分が支える地域は自分を支えてくれる地域だということを、きちっと教育ができるような懇談会にしてほしい。それをファシリテートして行ってほしいなと思う。

もう一つは、これも素案の中には無かった点だが、今後の地域福祉を考えていく上で、社会福祉法人や企業のCSR、社会貢献・地域貢献の部分で、原資や人材を活用していく、そういった目もきちっと入れて行って初めて、共有化できたバランスのいい地域ができてくるのかなと思った。

それと、地域福祉計画の意義というところを再度考えてみた。当然、公的サービスの創出というところが、非常に大きな部分を持つ訳だが、ともすれば地域福祉計画は、この公的サービスの創出というところに右傾化してしまう。今日も発信させていただいたが、住民主体で、個別支援と地域支援を一体的に展開できるようなコミュニティソーシャルワーカーと、地域組織化活動を一生懸命できるような社協さんのコミュニティワーク、ワーカーを育成していく。その中にはやはり、資源開発、ネットワーキングの構築、スーパーバイズできる人材の育成、これを是非とも計画の中にうたいこんでいただければと思っているので、よろしく願いしたい。

<委員>

毎日こういうことで、地域で活動をしているが、ああ、と納得するくらい良いものを作っていたら、どうもありがとうございました。今後ともよろしく願いしたい。

<委員>

私たちの団体は、社会福祉法人が主として会員なので、(計画素案の)福祉の働く場という部分にやはり目がいく。一般の人から見ると、社会福祉法人と民間の老人ホームとの差は分かりにくい。けれど、社会福祉法人は割と厳しくやられているが、民間のところは労働条件が違いすぎるというのがある。違うところでも同じよ

うな条件で労働できるような、厳しい監査というのは、保険を使っている以上は当たり前なことなので、民間のところにももう少し踏み込んで労働条件を確認していただけたら。和歌山市の方としても、大変な仕事だけれども、私たちにとってもありがたいかなということは、すごく感じた。

また、老人の方では15の地区に分かれていて、それが当たり前だと思っていたが、今話を聞いてみると42に分かれているとか、何だかばらばら。あらゆる所から代表者がこのように来てくださると、違いが分かりやすく、それが当たり前だと思っていたことが、そうじゃないと分かってくるのが、この団体の良いところ。15で当然やっていたものを、42にと言われたら、混乱してしまうと思うので、早急にまとめていただけたらありがたいと感じる。福祉に関しては、私たちも協力させていただきたいと思っているので、今後ともどうぞよろしくお願ひしたい。

<委員>

自治会の立場として、こういう福祉社会づくりにおいて、住民の皆さんに色々な催し、こういうものがあるんだということを分かっていたいただくために、市報の配布、回覧板などで、徹底してやっていきたいと思う。

<委員>

1つ提案させていただけたら。この素案の発表、1人で1時間喋りっぱなしというのはしんどいことではないかなと思う。各担当課の方が皆さん来ていただいている、その方たちに、どういうところで苦勞して、こういう素案をつくって、どういうところがこんなになったというのを、ちょっと生の声を聞かせていただけると、私たちにも取り組みやすい福祉計画になっていくのかなと思うので、その辺もちょっと考えていただきたい。

それと、私たち地域で携わっている者としては、地区の中で「仕掛け人」が本当に必要なと思うので、これからは、仕掛け人を育てる、そういう方向で社協の方も頑張っていきたいと考えている。

<委員>

今日は聞かせていただき、和歌山市の取り組みも沢山やっていることもよく分かった。事例集も見せていただき、各地域で本当に色々なことをされているということ、学ばせていただいた。

私たちは赤ちゃんから、それこそ高齢者の問題、障害のある方、そして環境の問題、色々なことを、繋がりをもって、学習したり実践したり、活動している。最近、繋がりが希薄になってきており、前の会の時も発言させていただいたが、常に笑顔で声をかける、言葉をかけるということをお忘れないように、私たち婦人会ではしていこうねと（言っている）。私共の地区は広く、一つでやっていこうという風

に言っているが、なかなか一つにはなれない。でも常に、困ったことだとか嬉しいことも言えるような、繋がりを大切にしていきたいし、それがまちの福祉に繋がっていくのではないかなという風に考えている。

<委員>

ちょっと地域福祉という括りから外れるかもしれないが、今年の秋以降、本当に各地で色々と水害がすごかった。防災活動というと、この辺だと、地震に対するものということに重きを置いての活動になろうかと思うが、例えば私の住んでいる地域の避難所あたりは、あそこ海拔どうだろうなと思う。ああいう事態になったら、勿論地域住民もそうだが、私たち障害者はなかなか避難が大変であろうな、ということがまず一点。

それから、この10月からは消費税が上がったけれども、その消費税が上がるに際して、所謂「仮想通貨」を使いなさいと、仮想通貨を使ったらポイントがどうこうというような話が沢山ある。私も携帯機器をいくつか持っているが、視覚障害があったり、指先に障害がある人は、そういう携帯端末を使って仮想通貨を間違いなく入力するというのはなかなか難しかろうなという風に最近考えている。

3 閉会